

平成28年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成29年5月

蕨市（埼玉県）

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成28年度終了時点（平成29年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成27年4月以降、認定基本計画に基づき、「日本一小さな市域における日本一の人口密度を有するコンパクトシティとしての都市活力の持続性確保を目指した中心市街地活性化」を基本的な考え方として各事業を推進している。

特に、中心市街地の骨格を形成し、賑わいや活力の起爆剤とすべき蕨駅西口地区第一種市街地再開発事業については、準備組合が設置され、事業化に向けた調整が進められており、東口コミュニティ・ショッピング道路整備事業については、平成28年度の事業実施により、快適で安全な買物・歩車共存道が整備された。

経済活力の向上を目指した取り組みとしては、平成28年度に蕨ブランド認定制度を創設し、蕨の地域資源である、双子織やわらびりんごを用いた商品等を蕨ブランドとして認定した。また、四季を味わう“日曜日のタベ”交流会事業については、中心市街地8商店街が連携し、“週末にぎわい交流会”を開催するなど、今後の8商店街持ち回りによる開催に向けて機運を高めた。

更に、一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会が運営する商業施設「ぷらっと」の有効活用については、平成28年10月から、チャレンジレストランとカフェの2つの機能を有する施設「クアッカ」として、リニューアルオープンし、新たな賑わい創出に寄与している。

このように、平成28年度は、認定基本計画に掲げる主な事業について進展がみられたが、一方で、市内で古くから創業していた大型店が相次いで閉店するなどの影響もあり、中心市街地活性化の目標値の推移は低調な状況である。引き続き、官民による密接な連携・協働に基づく確実な事業実施を図り、持続的な都市活力の発現を誘発する。

2. 平成28年度の実績等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成29年3月29日に法定協議会を開催し、平成28年度当初の法定協議会で活性化事業への主な行動目標として設定された①蕨宿“食”の交流拠点整備事業、②東口コミュニティ・ショッピング道路整備事業、③今後の「ぷらっと」の活用方法の決定および実施体制の確立、④四季を味わう“日曜日のタベ”交流会事業、⑤空き店舗有効活用事業、⑥蕨ブランド育成・強化事業についての取り組み状況の報告・検討が行われた。

設定された行動目標に関しては、概ね進展が見られたが、認定基本計画に掲げる目標達成に向けては、引き続き最大限の努力が必要であり、当協議会において、実行性を確保するために、実施主体と関係団体との相互協力の強化を図るとともに、中心市街地活性化に向けては行動目標にとらわれず、自由に議論を重ね、計画を推進していくことが確認された。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
目標① 空間ストック の有効活用 による新陳 代謝の誘発	空き店舗・低未利用 地(件数)	128 (H26年度)	118 (H31年度)	153 (H28年度)	③	③
目標② 来街目的の 多様化によ る賑わい創 出	休日の歩行者・自 転車通行量(人/ 日)	41,980 (H24年度)	43,585 (H31年度)	40,969 (H28年度)	③	③
	蕨市立歴史民俗資 料館の来館者数 (人/年度)	35,167 (H25年度)	38,610 (H31年度)	35,485 (H28年度)	③	③
目標③ 中心市街地 への市民の 支持向上	市民意識調査にお ける「蕨駅周辺の整 備」の満足率(%)	29.06 (H26年度)	36.8 (H31年度)	22.6 (H28年度)	③	③
	市民意識調査にお ける「商店街の活性 化」の満足率(%)	9.93 (H26年度)	19.0 (H31年度)	7.5 (H28年度)	③	③

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「空間ストックの有効活用による新陳代謝の誘発」については、閉店・廃業から空き店舗へ、更に建物除却による駐車場などの低未利用地の増加が顕著であるが、その一方で、平成27年度は0件だった空き店舗有効活用事業が、28年度は3件の利用があり、徐々に新陳代謝が図られている。今後も、空き店舗有効活用事業のより一層の拡充を図るとともに、街なか共同住宅供給事業の促進による空き店舗・低未利用地の減少を推進する。

「来街目的の多様化による賑わい創出」については、取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標指標である休日の歩行者・自転車通行量及び蕨市立歴史民俗資料館の来館者数は平成27年度と比べ、増加している。これは、27年度は1商店街のみでの継続実施にとどまった四季を味わう“日曜日の夕べ”交流会事業が、28年度は実施主体である一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会において、プロジェクト委員会を立ち上げ、支援を行ったことから、事業中断中であった蕨市立歴史民俗資料館が立地する商店街で事業再開できたことや、埼玉県的全県一斉商店街まつりに合わせて、中心市街地8商店街が連携して、“週末にぎわい交流会”を開催したことなどが要因として考えられる。今後も、8商店街が連携を深め、商店街全体で実施することにより、休日における来街目的の創出と回遊行動の回復に伴う目標値達成への改善が見込まれる。

「中心市街地への市民の支持向上」については、低調ではあるが、平成27年度と比べると、各目標指標とも満足率が向上した。「蕨駅周辺の整備」の満足率の向上には、蕨駅西口地区第一種市街地再開発事業が大きく影響し、具体的に事業が見えてくることで更なる満足率の向上が見込まれる。「商店街の活性化」の満足率については、四季を味わう“日曜日の夕べ”交流会事業の8商店街全体での実施により、目標値達成へ向けての改善が見込まれる。

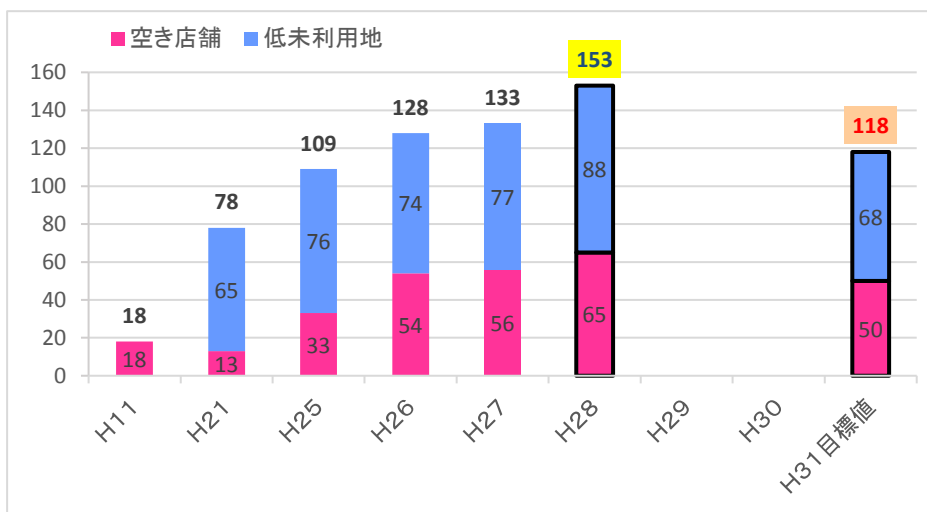
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

特に前回のフォローアップと見通しは変わっていない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

(1) 「空き店舗・低未利用地」 ※目標設定の考え方基本計画 P69～P73 参照

●調査結果の推移



年	(単位: 件)
H26	128 (基準年値)
H27	133
H28	153
H29	
H30	
H31	118 (目標値)

※調査方法：現地踏査による件数のカウント

※調査月：平成28年11月

※調査主体：蕨市

※調査対象：空き店舗、低未利用地（空地、月極め・時間貸し駐車場）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗有効活用事業（蕨市、一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会）

事業完了時期	平成23年度～【実施中】
事業概要	一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会が、蕨市空き店舗有効活用事業補助金の受け皿団体となり、空き店舗の所有者・管理会社からの物件情報（認定店舗）の収集と、出店者募集活動と出店申込みの受付、補助金交付申請事務手続きなどのマネジメントを行う。
事業効果及び進捗状況	各商店街への空き店舗物件の照会・補助対象の選定などを継続的に実施した結果、平成27年度は活用件数が0件だったのに対し、28年度は3件の活用が図られた。 空き店舗の選定と出店希望者のマッチングに対する補助金の導入に

	より、空き店舗有効活用の促進が図れることから、より一層の積極的な事業推進を図る。
--	--

②. コミュニティビジネス支援事業（蕨市、蕨商工会議所）

事業完了時期	平成23年度～【実施中】
事業概要	商店街と消費者・各種団体などの連携・協働によるコミュニティビジネスの立上げや運営の適正化の誘導、商店街活動などへのサポーター制度の構築を図ることにより、地域活性化を促進する。
事業効果及び進捗状況	蕨市コミュニティビジネス講座は、創業の可能性を高めるため、平成26年度から、座学と店舗運営をセットにした、より実践的な講座としている。これにより、創業に対し意欲的な受講者が集まるようになっており、今後も同様の講座を継続し、創業の機運を高めていく。

③. 中仙道蕨宿手づくり体験工房館整備事業（中仙道蕨宿商店街振興組合、蕨商工会議所、NPO 法人わらび学びあいカレッジ）

事業完了時期	平成29年度【未】
事業概要	蕨の伝統織物である双子織を活用した、蕨宿手作り伝承事業を通じて蓄積される人的ネットワークや機織り技術と作品制作のノウハウを、空き店舗の活用による手づくり体験工房館を整備・運営することで、製販一体型の産業育成につなげていくとともに、「蕨宿」を中心とする観光回遊行動の誘発を目指す。
事業効果及び進捗状況	蕨宿の空き店舗を活用し、手づくり体験工房館を整備・運営することにより、歴史・文化を背景としたさまざまな体験メニューを提供する立ち寄り拠点の形成と回遊行動による時間消費への対応が図られ、来街目的の多様化による賑わい創出に貢献する事業である。 蕨宿手づくり伝承事業に記載のとおり、現在、市民活動団体と連携して蕨市立歴史民俗資料館分館を会場に、機織り体験を実施しているほか、市民による双子織作品展が開催されるなど双子織の普及が広がりをみせている。今後も同様の取り組みを継続し、常設の店舗設置に向けた機運を高めていく。

④. 「わらびりんご」ビジネス展開事業（蕨市、蕨市園芸緑化研究会、わらびりんごの会、蕨商工会議所、一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会）

事業完了時期	平成27年度～平成29年度【実施中】
事業概要	本市の貴重な特産品としての「わらびりんご」を活用したサイダー、菓子などの商品化とともに、「わらびりんご」誕生物語などの絵本づくりやコンテンツビジネスの展開などを推進する。
事業効果及び進捗状況	平成27年度に「わらびりんごサイダー」を商品化し、28年度も機まつりや各種農業イベントにおいて数量限定販売を行った。中心市街地の新たな魅力要素として、都市活力の向上と来街目的の多様化に寄

	<p>与する事業であるが、市内で採れるりんごの量に限りがあることから、現時点では継続的に商品を提供することは難しい。</p> <p>今後もしりんごの育成に努め、製造本数を増やすとともに、新たな商品の開発や、事業拠点となる店舗を設置し、商品の販売・購買機会の拡充につなげていく。</p>
--	--

⑤. わらび街なか共同住宅供給事業（一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会、民間事業者）

事業完了時期	平成28年度～31年度【実施中】
事業概要	一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会と市内不動産会社、設計事務所などが連携・協働し、立地環境や敷地規模に応じた適正な土地の有効活用、共同建替えの誘導を図る。
事業効果及び進捗状況	一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会と市内の建設会社や不動産会社、設計事務所などが連携・協働して、土地の有効活用に基づく優良建築物等整備事業の推進を図ることにより、住宅・住環境の整備による都市活力の創出に寄与する事業である。
	空き店舗の除却等により、商店街内への中高層建築物（集合住宅）の建設が増えているが、1階部分に店舗等を設置する物件が少ないことから、引き続き、関係団体と連携して店舗の設置を誘導する方法等について検討する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

空き店舗有効活用事業については、各商店街からの物件紹介だけでなく、一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会による独自の物件抽出や所有者・不動産事業者との連携強化などを引き続き積極的に行い、空き店舗の減少へ向けた取り組み強化を図る。

また、わらび街なか共同住宅供給事業については、空き店舗の除却による空地や駐車場、住宅用地への転用が進展している状況を踏まえ、所有者・不動産事業者などに対する土地利用事業への啓発活動も含めて、低未利用地の有効活用事業の促進と低層部分の商業用途の導入の促進などの複合的な取り組みを図る。

コミュニティビジネス支援事業については、講座を座学と店舗運営をセットにした実践的な形に変更したことで、新たな目標や課題が明確になったと、受講者から好評を得ている。引き続き、実践的な講座を開催し、地域活性化の担い手となる人材の育成に努めるとともに、創業までの段階に応じて、蕨商工会議所と連携しながら適切な支援を行い、空き店舗有効活用事業と連動を図り、市内創業へとつなげていく。

「わらびりんご」ビジネス展開事業については、平成27年度に「わらびりんごサイダー」を商品化し、たいへん好評を得ていることから、28年度創設した蕨ブランド認定制度において、蕨ブランドに認定された。今後展開していく上で課題となっている、わらびりんごの収穫量の向上に向け、引き続き、苗木の育成に取り組んでいくとともに、事業拠点となる店舗設置に向けて、立地や物件等を検討していく。

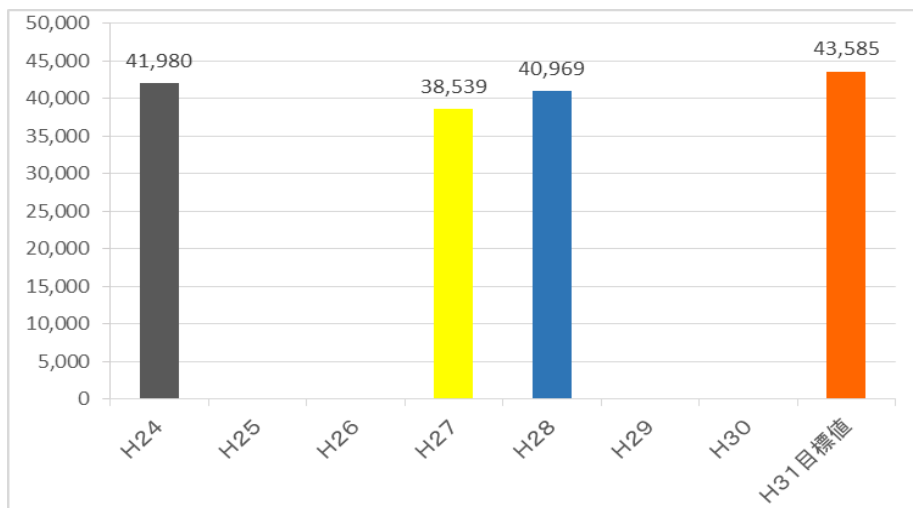
中仙道蕨宿手づくり体験工房館整備事業については、常設店舗の設置に向け、引き続き機運を

高めていく。

目標達成に向けた進捗状況は低調ではあるが、地域活性化の担い手となる人材は育ちつつある。今後も蕨商工会議所、一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会と連携を密にし、創業への機運が高まった際に、着実にマッチングしていくことで、目標値の改善が期待できる。

(2) 「休日の歩行者・自転車通行量」 ※目標設定の考え方基本計画 P73～P77 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人)
H24	41,980 (基準年値)
H27	38,539
H28	40,969
H29	
H30	
H31	43,585 (目標値)

※調査方法：中心市街地9地点の休日10時間（10：00～20：00）の歩行者・自転車通行量のカウント

※調査月：平成28年11月20日（日）

※調査主体：蕨市

※調査対象：歩行者・自転車通行者の総数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 四季を味わう“日曜日の夕べ”交流会事業（一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会）

事業完了時期	平成23年度～【実施中】
事業概要	毎週末に8商店街持ち回りで、飲食店などの参画による“四季を味わう交流会”を開催する。
事業効果及び進捗状況	週末の賑わい創出に寄与する同事業は、平成27年度は継続実施が1商店街であったが、28年度は実施主体である一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会において、プロジェクト委員会を立ち上げ、支援を行ったことから、中断中であった1商店街で事業が再開された。また、埼玉県的全県一斉商店街まつりに合わせて、8商店街が連携して“週末にぎわい交流会”を開催した。

②. 蕨駅西口地区第一種市街地再開発事業（市街地再開発組合）

事業完了時期	平成28年度～31年度【未】
事業概要	平成23年度に事業完了した第一工区との連続性・一体性に配慮しながら、土地の高度利用により、商業施設や高層都市型住宅整備による

	複合都市機能を一体的に整備するとともに、蕨駅西口駅前広場や区画街路の整備などを行う。
事業効果及び進捗状況	新規居住者の確保と都市機能の更新・集積の形成などによる歩行者・自転車流動の増加が見込まれる。現在、再開発準備組合による事業計画の調整が行われている。

③. 蕨宿“食”の交流拠点整備事業（一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会）

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	中仙道蕨宿に立地する明治時代の旧商家である蕨市立歴史民俗資料館分館を有効活用することにより、飲食・交流拠点として整備する。
事業効果及び進捗状況	既存建築物を保存・活用しながら、飲食・休憩機能を付加することにより、市民及び広域来訪者の交流施設として機能し、蕨市立歴史民俗資料館への来館者との相互利用と来街目的の多様化による回遊行動の誘発が期待される。現在、地元商店街と事業主体による事業実施に向けた計画の具体化に取り組んでいる。

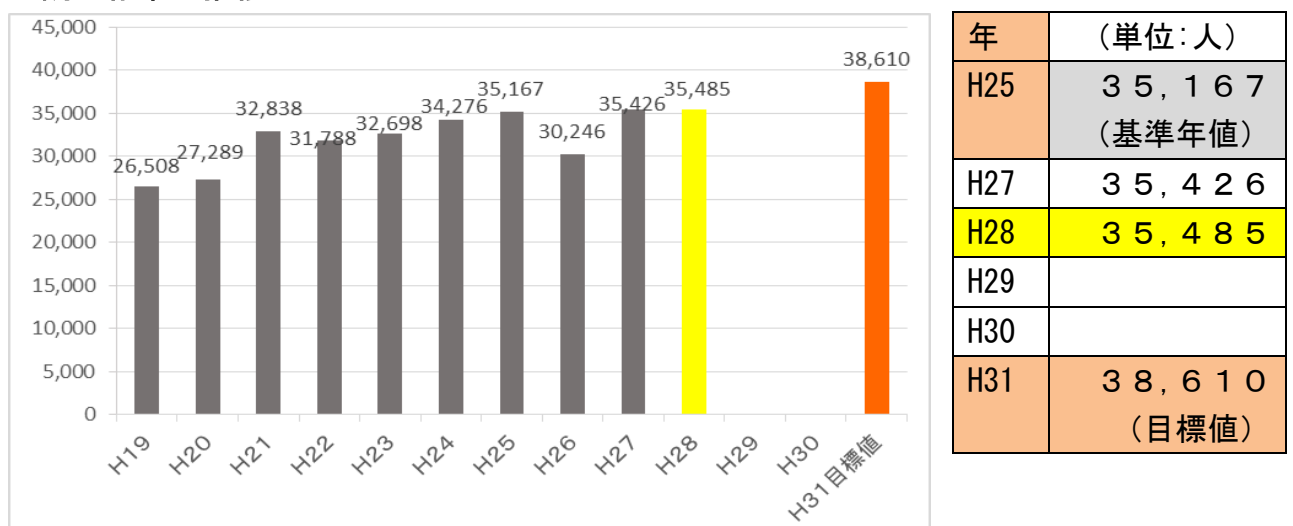
●目標達成の見通し及び今後の対策

目標値の推移は低調であるが、これは蕨市内で古くから創業していた大型店が閉店したことから、その地域の商店街の歩行者通行量の大幅な減少によるところが大きいためであり、その他の商店街では歩行者通行量は増加している。

四季を味わう“日曜日の夕べ”交流会事業については、単発イベントではあるが、8商店街が連携して中心市街地内3会場で“週末にぎわい交流会”を開催し、1000人ものかたに商店街へ足を運んでいただいた。同事業は、1開催につき200人の来場が見込まれることから、8商店街全体での実施により、目標値達成へ向けての改善が期待できる。併せて、蕨駅西口地区第一種市街地再開発事業の早期事業実施を図るとともに、蕨宿“食”の交流拠点整備事業の事業化による来街目的の多様化と回遊型歩行者流動の創出を図る。

(3)「蕨市立歴史民俗資料館の来館者数」※目標設定の考え方基本計画 P77～P79 参照

●調査結果の推移



※調査方法：蕨市立歴史民俗資料館の来館者数のカウントに基づく全数年間集計

※調査月：平成28年度末

※調査主体：蕨市

※調査対象：蕨市立歴史民俗資料館の来館者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 蕨宿“食”の交流拠点整備事業（一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会）

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	中仙道蕨宿に立地する明治時代の旧商家である蕨市立歴史民俗資料館分館を有効活用することにより、飲食・交流拠点として整備する。
事業効果及び進捗状況	既存建築物を保存・活用しながら、飲食・休憩機能を付加することにより、市民及び広域来訪者の交流施設として機能し、蕨市立歴史民俗資料館への来館者との相互利用と来街目的の多様化による回遊行動の誘発が期待される。現在、地元商店街と事業主体による事業実施に向けた計画の具体化に取り組んでいる。

②. 蕨宿観光パッケージ商品化事業（一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会）

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	蕨宿“食”の交流拠点整備事業の実施に合わせて、中仙道蕨宿歴史文化散策ガイドツアーや、宿場まつりなどの広域来街イベントと連携し、定常的な観光誘客の強化を目指した取り組みを図る。
事業効果及び進捗状況	周遊観光パッケージ商品の開発を行うことにより、ソフト面での誘客が図られ、来街目的の多様化による賑わい創出に貢献する事業である。現在、蕨宿“食”の交流拠点整備事業と合わせて、地元商店街と事業主体による計画の具体化に取り組んでいる。

③. 蕨宿手づくり伝承事業（中仙道蕨宿商店街振興組合、蕨商工会議所、NPO 法人わらび学びあいカレッジ）

事業完了時期	平成29年度～31年度【実施中】
事業概要	蕨市の伝統的産業である機織りの伝承と体験機会の提供による商店街の魅力向上を図る。
事業効果及び進捗状況	蕨商工会議所では、平成26年度から、蕨の伝統織物「双子織みらいプロジェクト」を立ち上げ、中仙道蕨宿商店街振興組合や市民活動団体と連携しながら、双子織のれんアート鑑賞会や機織り体験を実施するなど双子織の普及に努めている。また、市民有志を中心に「蕨双子織を広める会」が設立され、双子織作品展が開催されるなど新たな広がりも見せている。引き続き、関係団体との連携を深めながら中仙道蕨宿手づくり体験工房館整備事業に向けた機運を高めていく。

④. 中仙道蕨宿手づくり体験工房館整備事業（中仙道蕨宿商店街振興組合、蕨商工会議所、NPO 法人わらび学びあいカレッジ）

事業完了時期	平成29年度【未】
事業概要	蕨の伝統織物である双子織を活用した、蕨宿手作り伝承事業を通じて蓄積される人的ネットワークや機織り技術と作品制作のノウハウを、空き店舗の活用による手づくり体験工房館を整備・運営することで、製販一体型の産業育成につなげていくとともに、「蕨宿」を中心とする観光回遊行動の誘発を目指す。
事業効果及び進捗状況	蕨宿の空き店舗を活用し、手づくり体験工房館を整備・運営することにより、歴史・文化を背景としたさまざまな体験メニューを提供する立ち寄り拠点の形成と回遊行動による時間消費への対応が図られ、来街目的の多様化による賑わい創出に貢献する事業である。 蕨宿手づくり伝承事業に記載のとおり、現在、市民活動団体と連携して蕨市立歴史民俗資料館分館を会場に、機織り体験を実施しているほか、市民による双子織作品展が開催されるなど双子織の普及が広がりをみせている。今後も同様の取り組みを継続し、常設の店舗設置に向けた機運を高めていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

蕨宿“食”の交流拠点整備事業については、事業主体である一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会と施設が立地する商店街において、事業計画の方向性が確認されたところである。今後、地元商店街と事業主体による事業実施に向けた計画の具体化に取り組んでいく。

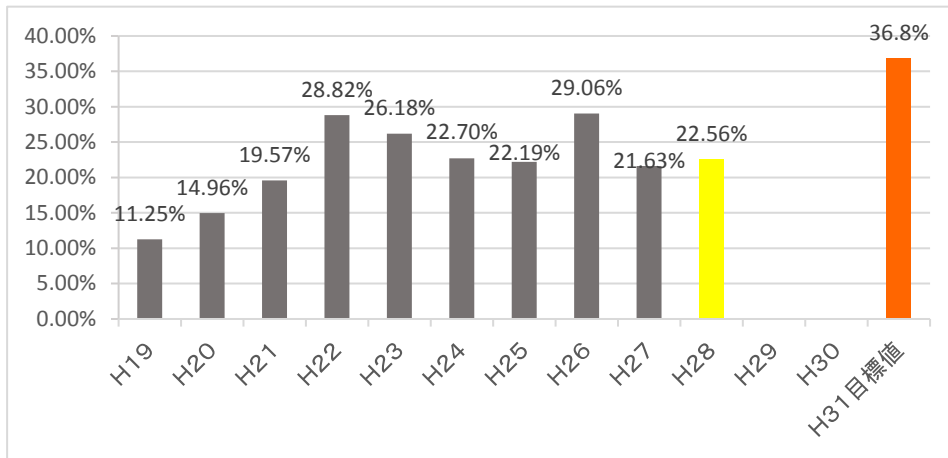
蕨宿観光パッケージ商品化事業については、苗木市や機まつり、宿場まつりなどのイベント時において、地元商店街によるソフト面の充実に取り組んでいる。今後は、定常的な観光誘客の強化を目指し、蕨宿“食”の交流拠点整備事業との相互連携に基づく観光パッケージ商品を開発し、回遊・散策行動により、歴史民俗資料館の来館者数のより一層の増加を誘発する。

蕨宿手づくり伝承事業については、双子織の普及に着実な広がりをみせており、引き続き機運を高め、中仙道蕨宿手づくり体験工房館整備事業へとつなげていく。

これら各種事業を着実に推進することで、回遊性が生まれ、目標値達成へ向けての改善が期待できる。

(4) 「蕨駅周辺の整備の満足率」 ※目標設定の考え方基本計画 P79～P81 参照

●調査結果の推移



年	(単位：%)
H26	29.1 (基準年値)
H27	21.6
H28	22.6
H29	
H30	
H31	36.8 (目標値)

※調査方法：行政連絡員による送付、郵便による回答によるアンケート調査（回収率42.5%）

※調査月：平成28年8月5日から8月31日まで

※調査主体：蕨市

※調査対象：住民基本台帳から各地区の年齢層別の人口比率に基づく、男女別に無作為抽出市内在住の満20歳以上の男女1,000人

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 東口コミュニティ・ショッピング道路整備事業（蕨市）

事業完了時期	平成27年度～28年度【実施済】
事業概要	塚越商店会において、大型店と商店会の連続的・一体的な買物空間の形成を目指して、駐輪対策も含めた道路の環境整備事業により、コミュニティ・ショッピング道路として整備する。
事業効果及び進捗状況	平成28年度の事業実施により、快適で安全な買物・歩車共存道が整備された。今後は地元商店街による賑わい演出活動の展開により蕨駅周辺の魅力づくりに寄与することが見込まれる。

②. 蕨駅西口地区第一種市街地再開発事業（市街地再開発組合）

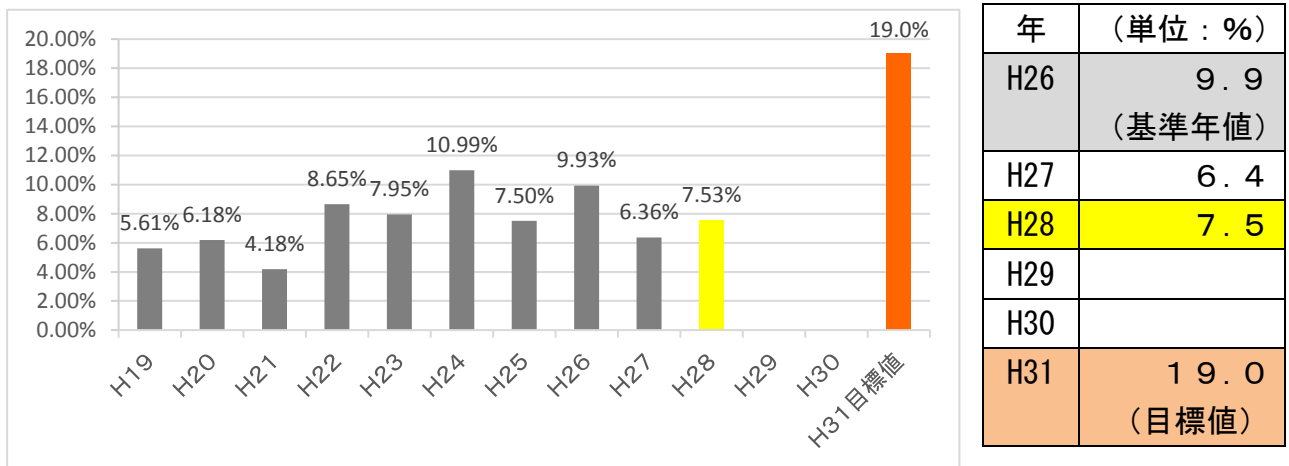
事業完了時期	平成28年度～31年度【未】
事業概要	平成23年度に事業完了した第一工区との連続性・一体性に配慮しながら、土地の高度利用により、商業施設や高層都市型住宅整備による複合都市機能を一体的に整備するとともに、蕨駅西口駅前広場や区画街路の整備などを行う。
事業効果及び進捗状況	新規居住者の確保と都市機能の更新・集積の形成などによる歩行者・自転車流動の増加が見込まれる。現在、再開発準備組合による事業計画の調整が行われている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

東口コミュニティ・ショッピング道路整備事業については、事業の完了が平成28年度末であるため、調査結果は微増にとどまっている。今後、同事業の完了に伴い、地元商店街では各種イベントや販売促進事業を実施していくことで、目標値の改善が期待できる。また、蕨駅西口地区第一種市街地再開発事業については、事業の具体化が認識できた時点で市民評価が発現し、更には事業の進捗状況により、満足度の維持・向上が図られることから、確実な事業実施を推進する。

(5)「商店街の活性化の満足率」※目標設定の考え方基本計画 P82～P83 参照

●調査結果の推移



※調査方法：行政連絡員による送付、郵便による回答によるアンケート調査（回収率42.5%）

※調査月：平成28年8月5日から8月31日まで

※調査主体：蕨市

※調査対象：住民基本台帳から各地区の年齢層別の人口比率に基づく、男女別に無作為抽出市内在住の満20歳以上の男女1,000人

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 蕨宿“食”の交流拠点整備事業（一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会）

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	中仙道蕨宿に立地する明治時代の旧商家である蕨市立歴史民俗資料館分館を有効活用することにより、飲食・交流拠点として整備する。
事業効果及び進捗状況	既存建築物を保存・活用しながら、飲食・休憩機能を付加することにより、市民及び広域来訪者の交流施設として機能し、蕨市立歴史民俗資料館への来館者との相互利用と来街目的の多様化による回遊行動の誘発が期待される。現在、地元商店街と事業主体による事業実施に向けた計画の具体化に取り組んでいる。

②. 四季を味わう“日曜日のタベ”交流会事業（一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会）

事業完了時期	平成23年度～【実施中】
事業概要	毎週末に8商店街持ち回りで、飲食店などの参画による“四季を味わ

	う交流会”を開催する。
事業効果及び進捗状況	週末の賑わい創出に寄与する同事業は、平成27年度は継続実施が1商店街であったが、28年度は実施主体である一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会において、プロジェクト委員会を立ち上げ、支援を行ったことから、中断中であった1商店街で事業が再開された。また、埼玉県的全県一斉商店街まつりに合わせて、8商店街が連携して“週末にぎわい交流会”を開催した。

③. 東口コミュニティ・ショッピング道路整備事業（蕨市）

事業完了時期	平成27年度～28年度【実施済】
事業概要	塚越商店会において、大型店と商店会の連続的・一体的な買物空間の形成を目指して、駐輪対策も含めた道路の環境整備事業により、コミュニティ・ショッピング道路として整備する。
事業効果及び進捗状況	平成28年度の事業実施により、快適で安全な買物・歩車共存道が整備された。今後は地元商店街による賑わい演出活動の展開により蕨駅周辺の魅力づくりに寄与することが見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

蕨宿“食”の交流拠点整備事業については、事業主体である一般社団法人蕨市にぎわいまちづくり連合会と施設が立地する商店街において、事業計画の方向性が確認されたところである。今後、地元商店街と事業主体による事業実施に向けた計画の具体化に取り組んでいく。

東口コミュニティ・ショッピング道路整備事業の完了は、平成28年度末であるため、調査結果は微増にとどまっている。今後、同事業の完了に伴い、地元商店街では各種イベントや販売促進事業を実施していくことで、目標値の改善が期待できる。

四季を味わう“日曜日の夕べ”交流会事業については、単発イベントではあるが、8商店街が連携して“週末にぎわい交流会”を開催し、多くのかたに商店街へ足を運んでいただいた。今後、8商店街全体での継続開催により、週末の中心市街地の楽しみを提供することで、市民評価が発現し、満足度の維持・向上が期待できる。